

1 トウニン

2 生薬の性状の項を次のように改める。

3 生薬の性状 本品は扁圧した左右不均等な卵円形を呈し、長さ
4 1.2～2 cm、幅0.6～1.2 cm、厚さ0.3～0.7 cmである。一
5 端はややとがり、他の一端は丸みを帯びてここに合点がある。
6 種皮は赤褐色～淡褐色で、外面にはすれて落ちやすい石細胞
7 となった表皮細胞があり、粉をふいたようである。また、合
8 点から出た多数の維管束が途中あまり分かれることなく種皮
9 を走り、その部分はいぼんで縦じわとなっている。温水に入
10 れて軟化するとき、種皮及び白色半透明の薄い内胚乳は子葉
11 からたやすく剥がれ、子葉は白色である。
12 本品はほとんどにおいがなく、味は僅かに苦く、油様であ
13 る。
14 種皮を剥離し、表皮の表面を鏡検〈5.01〉するとき、表皮
15 細胞が変形した石細胞の形状は部位により異なり、多角形、
16 長多角形、鈍三角形又は帽子形を呈する。通例、表皮下に径
17 10～30 μmのシュウ酸カルシウムの集晶を認める。中央部
18 横切片を鏡検〈5.01〉するとき、石細胞は方形、長方形又は
19 鈍三角形で、細胞壁の厚さは均一であるか又は外側が厚い。
20 中央平坦部の内胚乳の細胞層数は、*Prunus persica*に由来す
21 るものは1～5、*P. persica* var. *davidiana*に由来するものは
22 1～2である。子葉の柔組織中にアリューロン粒を認め、径
23 10 μm未満のシュウ酸カルシウムの結晶を認めることがある。